

令和3年度

# 研修のあゆみ

— 年報 —



山形県青年の家

# 目 次

はじめに 「自分を新しく」

<b>1</b>	令和3年度 運営のあり方	1
<b>2</b>	<b>事 業</b>	
	(1) YYボランティアビューロー	2
	(2) ボランティア関係者研修会	6
	(3) ボランティア実技研修会	7
	(4) 地域の食と文化を学ぶ	8
	(5) YYボランティアの集い	9
	(6) 地域をつくるリーダーセミナー	10
	(7) 若者自立支援活動 わいわいカフェ	11
	(8) 家庭教育支援研修会	12
	(9) T A T (TEAMオールてんどう) プロジェクト	13
	(10) 中止事業	15
<b>3</b>	令和3年度研修利用団体一覧	16
<b>4</b>	令和3年度研修利用状況	18
<b>5</b>	令和3年度研修利用実績一覧	20
<b>6</b>	組織および職員構成	21

## 研修事業の移り変わり (過去5年間)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
育成・少年ボランティアの	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YYボランティアの集い</li> <li>・ボランティア関係者研修会</li> <li>・地域ボランティア講座</li> <li>・ボランティア実技研修会</li> <li>・夏休み学習ボランティア</li> <li>・地域と学校の防災力を高める研修会</li> <li>・YYボランティア推進研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YYボランティアの集い</li> <li>・ボランティア関係者研修会</li> <li>・ボランティア実技研修会</li> <li>・夏休み学習ボランティア</li> <li>・地域と学校の防災力を高める研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YYボランティアの集い</li> <li>・ボランティア関係者研修会</li> <li>・青年の家開所60周年記念「YYボランティア推進研修会」</li> <li>・ボランティア実技研修会</li> <li>・地域と学校の防災力を高める研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YYボランティアの集い</li> <li>・ボランティア関係者研修会</li> <li>・青ボランティア実技研修会</li> <li>・地域と学校の防災力を高める研修会</li> <li>・T A T (TEAMオールてんどう) プロジェクト②</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・YYボランティアの集い</li> <li>・ボランティア関係者研修会</li> <li>・青ボランティア実技研修会</li> <li>・地域と学校の防災力を高める研修会</li> <li>・T A T (TEAMオールてんどう) プロジェクト②</li> </ul>
リーダーを担う育成	青年による持続可能な地域づくり推進事業	青年による持続可能な地域づくり推進事業	青年による持続可能な地域づくり推進事業	次世代の地域づくり中核人材育成事業 T A Tプロジェクト①③	次世代の地域づくり中核人材育成事業 T A Tプロジェクト①③
	生徒会 ニューリーダーセミナー	高校生主権者教育セミナー	高校生主権者教育セミナー	地域をつくるリーダーセミナー	地域をつくるリーダーセミナー
現代的青少年課題への対応	若者自立支援活動家庭教育支援研修会	若者自立支援活動家庭教育支援研修会	若者自立支援活動家庭教育支援研修会 オールてんどう社会教育懇談会	若者自立支援活動家庭教育支援研修会	若者自立支援活動家庭教育支援研修会

表紙 写真 上：『地域をつくるリーダーセミナー』、『ボランティア関係者研修会』の集合写真  
 中：『ボランティアサークル nicoこえ』の集合写真  
 下：『家庭教育支援研修会第2回』、『ボランティア実技研修会』の集合写真

# 自分を新しく

所長 相澤 哲哉

## <はじめに>

人口減少やデジタル技術革新、グローバル化等社会が大きく変化する中で、新型コロナウイルスの感染は拡大しています。感染防止対策により、生活や仕事、学校の日常は変容しています。青年の家の運営も不確実性を前提とした変化への対応が求められました。私たちが思いを一つにしたのは、青年の家自身がどう変わるかです。コロナ禍だからこそ、情熱を持って早く試すことを心がけ「自分を新しく」を目指しました。

## <学校教育との連続性と差別化>

昨年度私たちは、コロナ禍であっても高い研修ニーズを実感しました。今年度注目したのは、学校教育との連続性と差別化です。それは、思考力と判断力、表現力の育成に力を入れている授業との連続性です。また、学校とは違う主体性の発揮や多様な他者との協働ができる場の提供です。学校の学びと本所の学びを相互に活かせるように、かつ、初めての出会いが生み出す学びを実感できるように、研修プログラムをつくり上げました。

## <研修ビジョンをわかりやすく>

個々の研修事業ごとに「何を学ぶのか、どんな方法で学ぶのか、なぜ学ぶのか」を整理し明確にしました。そして、それを研修対象の方々にわかりやすく伝えることに力を入れました。このことがコロナ禍にあっても研修申込者の増加につながったと考えています。個々の研修ビジョンの明確化により、研修講師との打合せや研修プログラムの修正、感染拡大への対応も円滑に進めることができました。

## <新しい情報ツールが生んだ研修の多様性>

情報ツールを増加させ、大学、短大等へも案内を開始しました。公式SNSを新設、研修へのGoogle Classroom、Zoomの活用もスタートさせました。研修事業に大学生の参加があっただけでなく、参加者の所属校はより幅広いものになりました。情報ツールの多様化が研修参加者の多様化を生み、幅広い年齢層の青少年が共に学ぶ研修が実現しました。

## <利用者目線の新しい設備整備等>

指定管理企業体と協力して利用者目線に立って設備を整備しました。体育館照明を調光機能付きLEDに、西日防止の体育館カーテン整備、お湯も出る自動手洗いコーナー、宿泊室の畳替え等です。また、青年の家広報ポケットティッシュをつくり公共機関で配布しました。体育館利用は新規団体の利用が増加しました。今後もコロナ禍での安全確保と利便性向上を図りながら、社会教育の機会を提供してまいります。

## <おわりに>

パンデミックが青少年の成長に与えている悪影響を、多くの教育関係者が深刻に受け止めています。これまで青年の家は、その時代を生きる青少年の思いや願いをくみ取り、人と人とのつながりに学びを創出してきました。青年の家の原点に立ち返るほど、交流を制限されている青少年達に心が痛みます。未曾有の環境下で、研修講師を引き受けてくださった皆様、青少年の健全育成のために本所を活用していただいた指導者の皆様に心より感謝申し上げます。

# 1 令和3年度 運営のあり方

I 教育目標 多様な活動や交流をとおして持続可能な社会参画を促し、自立と共助の精神に満ちた青少年を育成する。

## II 運営方針

- 1 人や社会との関わりにつながる多様な交流・体験活動の機会や情報の提供を通じて、地域社会への主体的な参画を促し、青少年の社会力の育成に努める。
- 2 学校及び関係機関・団体とのさらなる連携を通じて、学校教育と社会教育の垣根を越えて次代を担う人づくりに努める。
- 3 安全・安心な施設管理とコミュニケーションを重視した心の通う施設運営を通じて、豊かな人間関係づくりを支援し、青少年の健全育成に努める。

## III 運営の重点目標

- 1 青少年の社会力を育む主催事業（3つの柱）の充実
  - (1) 青少年ボランティアの育成・支援
    - ① 県内の地域青少年ボランティア（Y Yボランティア）の中心センターとして社会や地域の要請を的確に把握し、HPでの情報発信や出前講座の充実を図る。
    - ② 指導者や会員の要請に応える充実した会議・研修会を企画・実施する。
    - ③ 「夏の体験ボランティア」を関係機関・団体と綿密に連携しながら実施し、会員の拡大を図る。
    - ④ 災害発生時の対応と課題解決に向けた研修会を企画・実施し、地域と学校の防災力と地域連携力を高め、危機管理への心構えを育成する。
  - (2) 次代を担うリーダーの育成
    - ① 主体的に地域活動に参画している若者や活動団体との関係を構築し、持続可能な地域づくりに向けて高校生と連携していく方法を模索する。
    - ② 世代を超えた交流活動を推進し、問題意識をもって積極的に地域活動に参画するリーダーを育成する。
  - (3) 青少年に関わる現代的課題への対応
    - ① 家庭教育に対して保護者が抱える悩みや心配ごとを把握・共有し、保護者を側面から支援するための研修会を企画・実施する。
    - ② 特別な支援が必要とされる場面の状況を把握し、関係者を幅広く支援する体制を整える。
  - (4) 3つの柱を踏まえた主催事業の推進
    - ① 主催事業の趣旨を広く周知するため、関係団体への広報活動を強化し、参加者の増加を図る。
    - ② 青少年地域活動の活性化と啓発を図るため、関係機関と連携して活動状況の調査を行うとともに、対象者の要請を確認して事業に反映させる。
- 2 関係機関・団体等との連携推進
  - (1) 持続可能な社会教育を推進するため、教育事務所、各市町村社会教育課、学校、社会教育関係団体等との連携を強化する。
  - (2) 県内各所に本所の事業実施状況を周知するため、「山青の風」を隔月発行する。
  - (3) 天童市における協働的な青少年ボランティア活動を促進するため、天童市内の高校、県教育関係機関、天童市教育委員会が連携して「TATプロジェクト（TEAMオールてんどう）」を主宰し、持続可能な地域参画の在り方を検討する。
- 3 研修環境の充実と安全確保
  - (1) 利用者の多様な要請に応えるため、指導部門と管理部門の連携を密にし、施設・設備の充実と運営の改善に努め、ハード・ソフト両面にわたる研修環境の充実を図る。
  - (2) 利用者にとって安心・安全な研修を実現するため、定期的に施設・設備の安全点検を行い、事故の未然防止に万全を期すとともに、防災訓練、避難誘導訓練、救急法訓練を行い、安全管理体制の強化に努める。
  - (3) 急激な状況変化に対応するため、危機管理マニュアルや研修受入れに係るガイドラインを柔軟に見直し、利用者の安全に十分配慮しながら事業を企画・運営する。
  - (4) 経年劣化した施設・設備の安全管理のため、県有建物長寿命化計画に則り、県教育委員会主管課との連携を密にして修繕・保全に取り組む。
- 4 職員の資質向上
  - (1) 社会教育・青少年教育施設の専門職員として社会の要請に応えるため、各種研修に積極的に参加して資質能力の向上に努めるとともに、職員間で共有し組織の活性化を図る。

## 2 事 業

### (1) YYボランティアビューロー

#### 1 YYボランティアビューローについて

県内の地域青少年ボランティア（YYボランティア）の中央センターとして、インターネット及び新聞報道等を活用し、各サークルの情報の収集・提供を行った。また、関連事業の情報をSNSの利活用を通じて積極的に県内外に発信し、青少年ボランティア関係者支援を行った。

コロナ禍でも「夏の体験ボランティア」を実施することができ、「ボランティア出前講座」の実施を通して活動のすそ野の拡大を図った。

#### 2 山形県地域青少年ボランティア推進会議

地域青少年ボランティアの活性化を図るために、各サークルの指導者及び学校・教育行政・社会福祉協議会など幅広い関係者にも参加していただき、様々な見地から意見や助言・提言をいただいた。(第1回、第2回ともリモート開催)

第1回の会議では、本事業の事業計画や高校3年生のボランティア活動の現状と課題を報告した。協議では、関係諸機関による事業連携の方策や情報発信における連携の方策についてご意見をいただいた。

第2回では、一年間の活動報告を行い、ブレイクアウトセッションにより班毎にコロナ禍におけるボランティア活動の動向と令和4年度地域青少年ボランティア活動推進に向けてのテーマでご意見をいただき、全体共有を行った。



推進会議委員 ※敬称略

松田 道雄（尚絅学院大学 人文社会学群 教授）

渡邊 哲也（村山地区YYボランティア指導者）

井上多加志（最上地区YYボランティア指導者）

淀野 秀樹（山形県福祉教育ボランティア研究協議会）

菅原 知子（庄内地区YYボランティア指導者）

横尾 晃（山形県社会福祉協議会）

山口 四郎（山形県子ども会育成連合会会長）

後藤 秀之（山形市立第四中学校長）

柴崎 浩（山形県立山形中央高等学校長）

軽部隆一郎（山形県教育庁義務教育課）

鈴木 貴志（山形県教育庁高校教育課）



#### 3 ボランティア出前講座

ボランティア活動を普及させるために、学校やYYボランティアサークル等からの申し込みに対して、職員が学校・公民館等を訪問して実施している。内容はボランティアの基礎知識についての講義、自分たちでボランティアについて考えるワークショップなどを主とする。

近年ではボランティア活動そのものに関してではなく、初期指導のためのアイスブレイキングやエンカウンターの実施についての要請も多い。今年度はコロナ禍のため、少人数のグループで実施する配慮やリモートによる講座を行った。

- ①県立東桜学館高等学校1学年  
4月9日(金) 208名
- ②県立米沢工業高等学校1学年  
4月12日(月) 175名
- ③県立寒河江工業高等学校1学年  
4月13日(火) 83名
- ④県立東桜学館中学校1学年  
4月26日(月) 103名
- ⑤高島町高校生ボランティアサークル地球(テラ)  
5月10日(月) 15名
- ⑥藤島地域青少年ボランティアサークルBen's  
7月16日(金) 4名

各サークルはじめ関係機関に送付して情報を提供した。



## (2) ホームページの運用

今年度は、各サークルにおいてコロナ禍でも活動を活発化させており、新聞等でも紹介されることを受けてホームページにも掲載し、広く情報発信することができた。地区センターとの連携や各サークル担当者と直接情報交換することで中央センターに活動情報や広報情報が集まり、掲載することができた。

アクセス数は昨年度より増加し、1日平均約540件(昨年度は501件)だった。



## 4 情報の収集・提供及びホームページ

### (1) 『山形県の青少年地域活動団体一覧』

12月に、地区ごとの団体数、人数、男女比、年代構成等について一回の調査を実施している。2021年12月現在活動中の団体は、YYボランティアサークルが48団体(803名)、青年団体が66団体(1,234名)である。データは編集し、

## 5 夏の体験ボランティア

各サークル及び団体・施設からボランティア企画を集めて地区ごとにリーフレットとしてまとめ、県内の中学2・3年生及び高校生の全員、市町村教育委員会等の関係機関に配布して、ボランティア体験が可能な場の情報を提供した。

コロナ禍で昨年度は中止を余儀なくされたために2年ぶりの開催となり、企画数も大幅に減少したが、企画によっては募集定員を超える応募が多くあり、中高生のボランティアに対するニーズの高さが伺えた。

夏の体験ボランティアに関する数値

企画提供団体数21 企画数30

参加者総数344名



## 6 成果・課題

### (1) 成果

- ①YYボランティア中央センターとして、県内4つの地区センターと連携し、市町村教育委員会や県・市町村社会福祉協議会等、関係機関と情報共有・交換を進めることができた。
- ②夏の体験ボランティアについては、関係施設や他団体と連携・協働しながら、実施することができた。次年度はもっと規模の大きな形で中高生が身近にボランティアを体験できる機会を作る。
- ③地域青少年ボランティア推進会議はリモート会議であっても話し合いを深めることができた。また委員の皆様から1年間の活動を見守って頂き、本事業に対してのたくさんの参考となるご意見を頂いた。SNSの利活用をはじめたのもその成果である。

### (2) 課題

ホームページの運用について、さらなる双方向の情報発信を目指して、運用方法を検討する。夏の体験ボランティアや高校3年生ボランティア活動実態調査において、生徒への配布方法についてリーフレットやアンケートのDX化も含めて今後検討していく必要がある。



## 7 参考数値

(1) 令和3年度 青少年地域活動団体の状況（令和3年12月1日現在）

### 【サークル数の状況】

#### ① YYボランティアサークル

地区	サークル数	前回の調査数 (R2年12月)	増減
村山	14	14	0
最上	11	11	0
置賜	8	8	0
庄内	15	17	▼2
県全体	48	50	▼2

### 【サークル会員数の状況】

#### ① YYボランティアサークル

地区	総数	男女別		校種別				
		男子	女子	小学生	中学生	高校生	大学生等	勤労青年
村山	218	51	167	0	91	110	7	10
最上	138	33	105	0	2	136	0	0
置賜	194	52	142	42	75	77	0	0
庄内	253	71	182	0	176	76	1	0
県全体	803	207	596	42	344	399	8	10

#### ② 青年ボランティアサークル

地区	サークル数	前回の調査数 (R2年12月)	増減
村山	19	19	0
最上	9	9	0
置賜	31	30	1
庄内	7	7	0
県全体	66	65	1

#### ② 青年ボランティアサークル

地区	総数	男女別		校種別				
		男子	女子	小学生	中学生	高校生	大学生等	勤労青年
村山	537	94	443	0	0	0	452	85
最上	95	40	55	0	2	21	10	62
置賜	489	260	199	6	2	2	119	360
庄内	113	58	55	0	1	9	49	54
県全体	1,234	452	752	6	5	32	630	561

#### ③ 計 (①+②)

地区	サークル数	前回の調査数 (R2年12月)	増減
村山	33	33	0
最上	20	20	0
置賜	39	38	1
庄内	22	24	▼2
県全体	114	115	▼1

#### ③ 計 (①+②)

地区	総数	男女別		校種別				
		男子	女子	小学生	中学生	高校生	大学生等	勤労青年
村山	755	145	610	0	91	110	459	95
最上	233	73	160	0	4	157	10	62
置賜	683	312	341	48	77	79	119	360
庄内	366	129	237	0	177	85	50	54
県全体	2,037	659	1,348	48	349	431	638	571

注：置賜地区の青年団体において30名の男女別が不明になっているので男女別の合計が総数より30少なくなっている。

(2) 「季節の体験ボランティア」参加者数の推移

#### ●活動体験者数（ボランティアサークル未加入者）

	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26
小学生	9	*	23	19	36	40	95	54
中学生	96	*	266	226	231	279	298	89
高校生	116	*	766	982	738	655	710	594
大学生等	3	*	55	46	17	21	23	9
その他	22	*	33	111	57	97	122	104
担当職員	28	*	44	87	37	64	239	
合計	274	*	1,187	1,471	1,116	1,156	1,487	850

#### ●活動会員数（ボランティアサークル会員）

	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26
小学生	0	*	0	0	0	0	0	0
中学生	8	*	14	23	16	37	27	19
高校生	58	*	130	177	92	116	145	151
大学生等	0	*	0	3	0	0	2	3
その他	1	*	12	4	1	8	4	13
担当職員	3	*	8	36	12	20	16	34
合計	70	*	164	243	121	181	194	220
総合計	344	*	1,351	1,714	1,237	1,337	1,681	1,070

(注)・平成29年度からは「夏の体験ボランティア」のみ実施。

・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施しなかった。

## (2) ボランティア関係者研修会

### 1 ねらい

市町村の教育委員会や社会福祉協議会で青少年のボランティア活動を支援している方々が、お互いの課題を共有しながらボランティア活動等のスキルアップと連携の構築を図る。

### 2 期日・会場

令和3年6月4日(金)・山形県青年の家



### 3 参加対象

市町村教育委員会生涯学習担当課職員  
(公民館職員)  
青少年ボランティアサークル担当者  
社会福祉協議会ボランティア担当者(定員20名)

### 4 日程・内容

- 10:00 開会行事
- 10:15 実習(「アイスブレイキングゲーム」の手法について)
- 11:10 ワークショップ①「地域の活性化に繋がるボランティア活動のテーマを作りましょう！」
- 12:00 昼食
- 13:00 事例発表 YYボランティアサークル【二十四孝PARTⅡ】  
発表者 芳賀 智彦氏  
(大石田町教育委員会教育文化課生涯学習グループ主任)
- 13:50 ワークショップ②「ワークショップ①で作ったテーマに沿って具体的な活動を企画しましょう！」
- 15:20 グループ発表
- 15:50 閉会行事

### 5 参加者

村山教育事務所・各市町村教育委員会・  
社会福祉協議会ボランティア担当職員  
計13名(男性6名、女性7名)

### 6 成果・課題

#### (1) 成果

- ①アンケート結果より、参加者の満足度が高かった。
- ②アイスブレイキングにおいては、参加者が適当な距離を保ちながらも交流することができた。また、司会をする際に大切にしなければならない事を伝えることができた。
- ③ワークショップにおいて、KJ法を用いながら一つの企画を作り上げる手法を体験させることができた。



#### (2) 課題

コロナ禍の中での事業であったためか、参加人数が少なかった。次年度以降は、参加人数を増やしていく必要がある。



## (3) ボランティア実技研修会

～SDGs×ボランティア～

### 1 ねらい

ボランティアに携わる青少年等に、ボランティアに対する理解を深め、活動に役立つ技術を習得し、新たな活動分野について考える機会を提供する。

### 2 期日・会場

令和3年12月25日(土)・県青年の家

### 3 参加対象

- (1) Y Yボランティアサークルで活動している中高生及び指導者
- (2) 高校の部活動等でボランティア活動を行っている高校生及び指導者
- (3) 青少年ボランティアに興味・関心のある方  
(定員20名程度)

### 4 日程

- 9:30 受付開始  
10:00 開講式  
10:10 講義・実技 「アイスブレイキングの方法」  
講師：研修主査 鈴木 貴博  
11:00 講演 「地域食堂あまやどりを通して、地域を知る」  
講師：小川 真実 氏  
(南陽市青年グループ「Zu-Zuーズ」)  
12:00 昼食  
13:00 ワークショップ  
①「SDGsの視点で地域の課題を探る」  
②「SDGs×ボランティアを企画してみよう」  
講師：所長 相澤 哲哉  
研修課長 沼澤 欣一  
15:00 閉講式・アンケート記入  
15:20 解散



### 5 参加者

参加者総数31名

(中学生2名、高校生26名、大学生1名、サークル担当者等2名)



### 6 成果・課題

#### (1) 成果

- ①定員を超える申し込みがあり、感染症対策を万全にした上ですべて受け入れた。参加者アンケートの結果より、参加者の満足度が非常に高かった。
- ②講座間のつながりを持たせ、アイスブレイキングにもグループ活動を取り入れたことにより、ワークショップのグループワークがスムーズに進んだ。
- ③SDGsをテーマとし、講演講師の選定に活かし、また共通の視点でワークが進められるようミニレクチャーを入れたことにより、世代が違って同じ理解度の中でワークが行えた。

#### (2) 課題

個人のワークを重視したため、時間的な制約があり、話し合いの時間が十分に取れなかった。感想としてもう少し話し合いを望む声があった。



## (4) 地域の食と文化を学ぶ

～麴による豊かな発酵文化！甘酒の神秘と秘伝豆の味噌づくり～

### 1 ねらい

- (1) 地域の食文化を学ぶ楽しさを実感してもらい学ぶことを通して実現する豊かな暮らしを考える機会を提供する。
- (2) 地域が有する食に係る環境と知恵を理解することを通し、青少年の地域活動への主体性を育む。

### 2 期日・会場

令和4年1月15日(土)・山形県青年の家

### 3 参加対象

中高生・短大生・大学生等 20名

### 4 日程・内容

- 9:15 受付開始  
9:30 開講式  
9:35 講座「麴が醸す甘酒の魅力」  
講師 仲野 賢 氏  
(出羽桜酒造株式会社・営業部長兼社長室長)  
10:35 休憩・準備  
10:45 体験「秘伝豆の味噌づくり」  
講師 渡邊 淑恵 氏、秋保佐恵子 氏  
(天童市西沼田遺跡公園)  
11:50 閉講式・アンケート記入・解散

### 5 参加者

参加者総数11名(高校生10名、教員1名)



### 6 成果と課題

#### (1) 成果

- ①アンケート結果によると、参加者の満足度は非常に高く、多様な動機からの申込で青年の家の役割や機能を実感した。
- ②コロナ感染予防対策を万全にし、安心安全な研修会を開催することができた。
- ③青少年の関わりが少ない団体とタイアップして事業を行うことで、素晴らしい教育効果を生むことを感じた。

#### (2) 課題

- ①コロナ禍により、参加者同士の交流場面が作れなかった。
- ②次年度は、地域の文化を青少年に伝え、地域を担う人材を育む事業として発展させていきたい。



## (5) Y Yボランティアの集い ～サークルの「活動」をイキイキさせよう！～

### 1 ねらい

- (1) ボランティア活動に携わる青少年の交流を促進する。
- (2) ボランティア活動のスキルを身に付ける。

### 2 期日・会場

令和3年12月11日(土)・山形県青年の家

### 3 参加対象者

- (1) 地域のボランティアサークルで活躍している若者・指導者等
- (2) 高校・短大・大学のボランティアサークル(地域貢献活動サークル等)で活動している学生
- (3) ボランティアや地域貢献活動に興味関心のある若者【定員20名程度】

### 4 日程

- 9:10 受付開始  
9:40 開講式  
10:00 アイスブレイキングでイキイキ  
講師：山形県レクリエーション協会  
鈴木 藤弥 氏  
11:10 バルーンアートでイキイキ  
講師：Y Yボランティアサークル  
「SAKEKKO」指導者 井上多加志 氏  
12:30 昼食・休憩  
13:30 ワークショップ  
「話し合いをイキイキさせよう」  
講師：日本ファシリテーション協会  
中部支部 一木 茂 氏  
16:00 閉講式・アンケート記入後解散



### 5 参加者

参加者総数33名

(高校生28名、大学生4名、青年1名)



### 6 成果と課題

#### (1) 成果

- ①アンケート結果では、参加者の満足度が非常に高かった。
- ②今年度初めて参加者が30名を越え、講座がスムーズに行えるための配慮をした結果、参加者は安心して講座を受けることができた。
- ③ある高校では部活動の一環として参加するなど、ボランティア講座のニーズの高さがうかがえた。

#### (2) 課題

結果的に参加者は多く、高校生と大学生、社会人との交流が生まれた。一方で、Y Yボランティアサークルからの参加がなく、本研修参加者がY Yボランティアサークルの活性化に寄与できるよう地道に取り組んでいきたい。



## (6) 地域をつくるリーダーセミナー

～交流を通して、生徒会活動も地域も盛り上げよう～

### 1 ねらい

- (1) 地域をつくる人材の育成を通し、生徒会役員として学校づくりを牽引する経験を、将来の地域づくりに活かす力を育成する。
- (2) 地域社会に目を向け仲間と活動している方や人と人との関わりを研究している方による実践的な学習を通し、リーダーに期待される資質能力を育成する。
- (3) 県内各高等学校の生徒会役員等の相互交流及びネットワーク形成を支援する。

### 2 期日・会場

令和4年1月29日(土)・山形県青年の家  
(内陸会場)オンライン開催に切り換えて開催

### 3 参加対象

県内各高等学校の生徒会役員等(各校3名程度)

### 4 参加者

参加総数29名(県内高等学校生徒会役員等25名、教職員4名 参加校数11校)

### 5 日程・内容

- 9:00 参加者入室・動作確認  
10:00 開会行事  
10:10 ポスターセッション  
(各学校の地域活動の紹介)  
11:10 青年リーダーからのメッセージ  
「夢と遊び心が地域を盛り上げる」  
講師 板垣 航氏  
(南陽青年団団長)
- 
- 12:20 昼食  
13:10 ワークショップ  
「地域をつくる若きリーダーになるための、人をまきこみ活動を展開していく発想力と展開力を身につけよう!」  
講師 松田 道雄氏  
(尚絅学院大学人文社会学群教授)
- 
- 15:20 感想発表会  
15:30 アンケート記入方法について  
15:40 閉会行事

### 6 成果と課題

- (1) 成果  
①アンケート結果より、オンライン開催に切り替えても参加者の満足度は非常に高かった。  
②各校の地域活動などをポスターセッションによって情報交換することで、今後の自校での活動の参考になったという声が多数見られた。  
③青年リーダーのマルチステージに係る活動は、参加生徒に夢と希望を与えながらも、その活動は趣味に留まらず地域に貢献できることを証明してくれた。

- ④ワークショップをとおして、他校の活動や問題点、自分達の活動へのアドバイスなど様々な意見が聴けたことが有意義な活動となった。  
《振り返りから》

- ・他校の活動を知ること、異なった視点の考え方を知ることができ、それを自分たちの学校に取り入れることができるので参考になった。
- ・自分の夢に向かって頑張る事は周りの人も巻き込むことでさらに素晴らしいものになるのではないかと思った。この講演で考えたことを将来や地域に繋げていきたいと感じた。
- ・話すことの大切さを学び、人とのコミュニケーションを大事にしようと思った。また、話すことは、今後の学校生活だけでなく社会に出たときにも必要な能力なので大変有意義な時間になった。

#### (2) 課題

- ①新型コロナウイルス感染症の影響で、募集人数等を縮小せざるを得なかった。
- ②まん延防止等重点措置の適用に伴い、オンライン開催へ切り替えざるを得ず、さらに庄内会場は中止という判断に至った。
- ③日程的に差し迫っていたため、オンライン開催用にプログラムを変更できなかった。

#### 《振り返りから》

- ・ワークショップの話し合いの時間が短い。
- ・リモートならもう少し短くても良いと思いました。



## (7) 若者自立支援活動 わいわいカフェ

### 1 ねらい

青少年の「ひきこもり」を支援するためにスポーツを楽しみながら人と交流できる場を提供する。また、あたたかい触れ合いの中で活動することで、心身のリフレッシュを図り、社会参加を促す。

### 2 期日・会場

令和3年10月5日(火)・山形県青年の家



### 3 参加対象

来所当事者支援をしている「ひきこもり」支援関係機関及び民間支援団体(定員20名)

### 4 日程・内容

13:00~13:30	受付
13:30~13:40	開会行事
13:40~15:10	スポーツ ポッチャ
15:10~15:20	閉会行事



### 5 参加者

蔵王いこいの里	13名
発達支援研究センター	3名
から・ころセンター	9名
クローバーの会@やまがた	2名
計	27名

### 6 成果と課題

#### (1) 成果

参加者のアンケート結果を見ると、「大変楽しかった・楽しかった」と感じてくれた人が大変多く、また、「今後も開催したら、参加しますか」という問いには、半数以上の人に参加したいと回答した。「日常とは異なる体験をする」「交流を通して心身のリフレッシュを図る」という本事業の目的は達成されたと考える。また、事前に参加を促したことにより、参加する事業所が増え定員より多くの参加者を得ることができた。

#### (2) 課題

参加者の中には屋外での活動を希望している者が半数以上いる。その希望を叶えるため一日開催を実施することができる状況になれば、屋内外の活動を計画する必要がある。



## (8) 家庭教育支援研修会

### 1 ねらい

親子共同活動を通し、家庭でのコミュニケーションの在り方や、家族の健康と子どもの心身の健全な発達について考える。

### 2 期 日

第1回：令和3年6月19日(土)

「コミュニケーションスキルとスラックライン体験」

第2回：令和3年11月6日(土)

「食育学習とスラックライン体験」

### 3 会場

山形県青年の家

### 4 内容

第1回：コミュニケーションスキルとスラックライン体験

\* 講義 「コミュニケーションゲームでもっと楽しく」

講師 佐藤 節子 氏

(山形県スクールカウンセラー)

- ・あいこじゃんけん
- ・牛馬じゃんけん
- ・共同絵画など

\* スラックライン体験

講師 井上 祐 氏

(山形県立東桜学館高等学校教諭)

- ・基本スキルトレーニング
- ・家族ごとに自由練習



第2回：食育学習とスラックライン体験

\* 講義「元気な体に必要な食事」

講師 佐藤 幸恵 氏

(山形県教育庁スポーツ保健課食育担当主査)

- ・野菜の切り口クイズ
- ・食べ物の消化の仕組み
- ・朝食の食べ物の三分類化など

\* スラックライン体験

講師 五十嵐 晃 氏(鶴岡スラックライン代表)

補助 本間 莉那 氏(鶴岡スラックライン)

加藤 早織 氏(鶴岡スラックライン)

- ・基本スキルトレーニング
- ・家族ごとに自由練習



### 5 参加者

参加者総数(第1回：21名、第2回：20名)

※第1回は抽選

### 6 成果・課題

(1) 成果

第1回

①コミュニケーションについての講義では、親子間のコミュニケーションスキルを深める様々な方法について実践を交えてわかりやすい説明がなされ、今後の子どもの成長と各家庭の日常生活に活かすことのできる内容であった。

②スラックライン体験についても、専門的見地を持った講師から技術指導や安全対策がなされ、親も子もルールを守って楽しんで体験活動を行うことができた。

第2回

①食育についての講義では、食べ物の消化の仕組みを理解したり、栄養素の働きによって食べ物を三色食品群に分類したり、カルシウムを摂取することの大切さを写真や骨のキャラクターの数で理解したり、子ども目線でも実践的に学び取ることができた。

②スラックライン体験についても、専門的見地を持った講師から技術指導や安全対策がなされ、親も子もルールを守って楽しんで体験活動を行うことができた。

(2) 課題

第1回

重点を置いた方が良い部分などの解説がもう少しほしいとの感想があり、親子両方に焦点を当てた講義の方法について、講師と協力しながら構築する必要がある。

第2回

普段家ではできないような体験ができれば楽しみとの感想があり、家では体験できないプログラムや講師陣を新規開拓していく必要がある。

## (9) TAT (TEAMオールてんどう) プロジェクト

～青年の家コーディネート ボランティアサークルを新設～

### 1 ねらい

- (1) サークルメンバー募集形式を採用することにより、青年の家研修課の直接的かつ継続的な支援がある青少年ボランティアを実現する。
- (2) 青少年の社会貢献への意欲や自己成長への希望に応える、継続性のある多様な活動や交流機会を提供し、人と人とのつながりに学ぶ青少年の拠点施設としての役割を果たす。
- (3) 本所研修課職員の青少年育成に係る専門的知識・技術や本所が有する人的ネットワークを活用したボランティア活動を実現する。
- (4) ボランティアサークルの継続的支援を通して得たボランティア指導に係る情報や知見を、本所の研修事業の質の向上に活用する。

### 2 募集期間

令和3年7月20日～令和3年8月31日まで

### 3 対象

高校生、大学・短大・専門学校生等（天童市エリアでの活動に参加できる方）

応募・参加者

山形大学 1名、山形西高校 1名、  
山辺高校 7名

### 4 日程・内容

- (1) キックオフミーティング  
期日 令和3年10月13日(水)  
16:00～17:00  
形式 オンライン会議  
参加 8名  
内容 ①職員及び参加者自己紹介  
②事業の目的について  
③サークル名を決めよう  
④活動内容を決めよう  
⑤その他・次回予定



### (2) 第2回ボランティアミーティング

期日 令和3年11月21日(日)

9:30～11:30

会場 山形県青年の家

参加 9名

内容 ①アイスブレイキング  
②YYボランティア等について  
③サークル名について  
④サークルの目的、今後の活動等

サークル名「nicoこえ」

nico…ニコニコ、笑顔、スマイル、楽しい

こえ…人種・学年・年齢をこえて話せる雰囲気、  
若者が声をあげることができる。

<活動方針> Smile…笑顔 Onward…向上  
Life…生活をよりよくなる Enjoy…楽しむ  
頭文字を横に並べると SOLE…唯一の



(3) 代表者ミーティング

期日 令和4年1月20日(木)

13:30 ~ 14:30

会場 オンライン会議

参加 2名

内容 ○今後の活動について

※高校生と大学生のオンライン交流会を企画

(4) 第3回ボランティアミーティング

期日 令和4年3月5日(土)

9:00 ~ 10:00

会場 オンライン会議

参加 8名

内容 ①話し合いのテーマ

②日程について

③次回の予定

※テーマ「スマホ依存からの脱却と読書」



(5) 第4回ボランティアミーティング

期日 令和4年3月15日(火)

9:00 ~ 10:00

会場 オンライン会議

参加 9名

内容 交流会の募集、内容、進め方について

(6) 「高校生と大学生の交流会(仮)」

期日 令和4年3月25日(金) 実施予定

10:00 ~ 11:00 (オンライン)

5 成果・課題

(1) 成果

- ・募集に対して応募があるか不安であったが、趣旨を理解した9名の大学生と高校生が加入した。
- ・最初はぎこちなさもあったが、次第に打ち解けて、サークル名、活動方針を真剣に話し合っ て決めることができた。

- ・コロナ禍という困難さをプラスに変え、オンラインでの話し合いを重ねることでイベントの開催を実際に行うことができたことはメンバーにとって成長する機会となった。オンラインという形式を使うことで進学で地元を離れても活動を継続する意思が確認できた。
- ・青年の家としてもボランティア支援の一環として、直接ボランティアサークルを支援することでYYボランティアサークルの指導者の支援する難しさやもどかしさが理解できたとともに、青少年のボランティアにおける変化や成長を支援者として体験できたことは今後の県全体の青少年ボランティア支援に生かすことができると確信した。

(2) 課題

- ・コロナ禍の中で青年の家で集まって行うミーティングが1回しかできなかった。しかし、一度だけ集まることができたことで交流が深まり、その後のオンラインの話し合いではスムーズにできた。
- ・次年度は、実際に具体的な地域貢献活動が行えるように準備や他団体との連携をしておくことが大切である。
- ・さらなるメンバー加入や持続可能な活動及び自走できる団体になるよう定期的なミーティングや活動を支援していく。



## (10) 中止事業

以下の事業は、参加者を募集し、申し込みいただいていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止とした。

### 【SDGs×スポGOMI in舞鶴山】

#### 1 ねらい

- (1) 環境美化活動を通し、地域の環境と文化の継承に、自立と共助の精神を持って行動する青少年を育成する。
- (2) 持続可能な社会づくりへの参画を目指し、コミュニケーションを行う力・他者と協力する力・繋がりを尊重する態度・進んで参加する態度を育成する。

2 共催 美しい山形・最上川フォーラム

3 協力 天童市

4 対象 中学高校生 30名

5 日時 令和3年5月22日(土)

6 場所 山形県青年の家 舞鶴山

#### 7 日程

- 9:00 受付開始  
9:30 開講式  
9:45 講義「舞鶴山の自然環境と文化」  
10:20 舞鶴山でスポGOMI体験  
11:35 競技終了

### 【地域をつくるリーダーセミナー】(庄内会場)

1 期日 令和4年1月30日(日)

2 会場 山形県金峰少年自然の家

3 講師 五十嵐 丈氏  
地域活動実践者(鶴岡市在住)  
松田 道雄氏  
尚綱学院大学人文社会学群教授

4 日程 内陸会場と同じ

### 【健康講座とスラックライン体験】

#### 1 ねらい

児童・生徒の保護者を対象に、軽スポーツの親子共同活動を通し、家庭の健康と子どもの心身の健全な発達について考えます。

2 対象 小学校低学年とその保護者10組

3 日時 令和4年2月26日(土)

13:30～16:30

4 講師 ・矢萩 裕氏(やなぎ接骨院 院長)  
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー  
・井上 祐氏(山形県立東桜学館高等学校 教諭)  
日本スラックライン連盟公認C級インストラクター  
ほか補助スタッフ2名

#### 5 日程

- 13:30 開会行事  
13:40～14:30 健康講座  
「オリンピック選手もやってる!秘密のコオトレ」  
14:40～14:50 準備運動  
14:50～16:10  
軽スポーツ体験「親子で楽しむスラックライン」  
16:20～16:30  
閉会行事と振りかえり

### 【高校生防災・減災未来フォーラム2021】

#### 1 ねらい

東日本大震災から11年、山形県内でも2年前の豪雨災害などで大きな被害に遭遇した。防災・減災の意識を高める教育が大切である。特に次世代を担う若者の防災意識と社会参画意識の育成が必要である。これからの担い手である高校生に対話と実践を通し「助けられる」から「助ける」への意識を育む。

2 協力 県防災くらし安心部

防災危機管理課

3 対象 県内の高校生 40名程度

4 日時 令和4年3月12日(土)  
(令和3年9月19日(日)から延期)

5 講師 【ワークショップ】

宮城教育大学  
311いのちを守る教育研修機構

協力研究員

東北大学非常勤講師

元宮城県石巻西高校校長

齋藤 幸男氏

【講演】

県防災危機管理課

防災教育推進主幹 古川 昭彦氏

#### 6 内容

- (1) 講演「災害時、何が必要か？」
- (2) ワークショップ①  
「避難所運営の実際と教訓」
- (3) ワークショップ②  
「災害初動期からの対応」
- (4) 若者からのメッセージ(提言)  
「災間を生きる者として～命と向き合い、いのちをつなぐ防災～」
- (5) 防災ミニツアー(避難所用ベッド・テント・非常食・パネル等の紹介)

#### 7 日程

- 9:00 受付開始(ロビー)  
9:30 オープニング(体育館)  
9:40 講演(体育館)  
10:20 ワークショップ①  
12:20 昼食休憩  
13:00 防災ミニツアー  
13:30 ワークショップ②  
15:00 若者からのメッセージ  
15:30 振り返り、アンケート  
15:45 クロージング(体育館)  
16:00 解散

### 3 令和3年度研修利用団体一覧

#### 1 子ども会の研修

なし

#### 2 幼稚園・保育園の研修

なし

#### 3 小学校やスポーツ少年団等の研修

天童市バドミントンスポーツ少年団	天童ウィナーズソフトテニススポ少	天童ジュニアソフトテニスクラブ
バスケットボールスクールハーツ山形	リベルタサッカースクール山形	

#### 4 中学校の研修

##### (1) 学年宿泊研修

なし

##### (2) 生徒会リーダー研修会

なし

##### (3) 部活動研修

天童二中女子バスケットボール部	山形二中女子バスケットボール部	鶴岡市立鶴岡第五中学校合唱部
-----------------	-----------------	----------------

##### (4) その他

l s t . R e v . B C	l s t . B C	天童ファーストクラブ
l バ ド	T G B スポーツ少年団	K B C
T B C	R48バスケットボールスポーツ少年団	R48女子バスケットボールスポーツ少年団
サンデーシャトルズ	A T 4 B	A T 4 G
かしわ男子バスケットボールクラブ	T O P	T K S
山形スマイルガールズ	城北クラブ	西崎女子ソフトテニス
T H クラ ブ	S P T	

#### 5 高等学校の研修

##### (1) 学年宿泊研修

なし

##### (2) 生徒会リーダー研修会

なし

##### (3) 高校関係諸団体

なし

##### (4) 部活動関係

天童高校バドミントン部	天童高校女子バレーボール部	酒田光陵高校男子バレーボール部
羽黒高校女子バスケットボール部		

##### (5) その他

秋田県少年女子バレーボールチーム
------------------

## 6 大学・短期大学の研修

### (1) 学校関係

なし

### (2) サークル合宿等

なし

## 7 専修学校・各種学校の宿泊研修

### (1) 学校関係

なし

### (2) サークル合宿等

なし

## 8 企業等の研修

### (1) 新入社員研修

なし

### (2) 社員研修・会議

株式会社 山形ビルサービス	(株)日本ハウスHD山形支店
---------------	----------------

## 9 行政等の研修

生涯教育・学習振興課「東北大学社会教育主事講習」	スポーツ保健課「新規採用養護教諭研修」
--------------------------	---------------------

## 10 社会教育団体の研修

天童南部第三学童保育所	ガールスカウト山形県第2団・3団
-------------	------------------

## 11 サークル等の研修

どんぐりクラブ	大石バドミントン	東海林ソフトテニスサークル
さくらんぼスポーツクラブ		

## 12 ボランティア関係

村山教育事務所「MYボランティアスキルアップセミナー」
-----------------------------

## 13 その他

山形県商業教育研究会	山形県山岳連盟	放課後等デイサービス事業所「つぼみ」
------------	---------	--------------------

## 4 令和3年度研修利用状況

### (1) 主催・受入事業別利用状況

主催研修			受入研修			合計		
団体数	実人数	延人数	団体数	実人数	延人数	団体数	実人数	延人数
14	239	239	225	3,365	3,578	239	3,604	3,817

### (2) 団体別利用状況

#### ア 成人・一般

区分	団体数	実人数
社会教育	192	149
企業関係	4	112
その他	31	122
計	227	383

#### イ 幼児・児童・生徒・学生

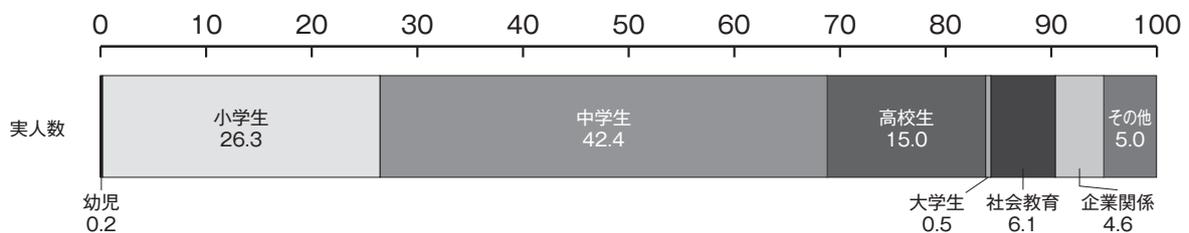
区分	団体数	実人数
幼児	0	4
小学生	0	647
中学生	3	1,043
高校生	9	369
大学生	0	13
計	12	2,076

#### ウ 指導者・引率者

実人数
1,145

### (3) 利用状況の割合（団体・利用者）

区分	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	社会教育	企業関係	その他	計
団体数	0	0	3	9	0	192	4	31	239
%	0.0	0.0	1.3	3.8	0.0	80.3	1.7	13.0	100
実人数	4	647	1,043	369	13	149	112	122	2,459
%	0.2	26.3	42.4	15.0	0.5	6.1	4.6	5.0	100



## (4) 宿泊数別利用状況

区 分	日 帰 り	1 泊	2 泊	3 泊	4泊以上	合 計
団体数	233	4	2	0	0	239
%	97.5	1.7	0.8	0.0	0.0	100.0
実人数	3,430	135	39	0	0	3,604
%	95.2	3.7	1.1	0.0	0.0	100.0

## (5) 月別利用状況

月	研修日数	団体数	実人数	延人数	1日平均人数	利用率(%)
4	30	20	219	219	7.3	3.4%
5	31	15	231	231	7.5	3.5%
6	30	18	295	295	9.8	4.6%
7	31	30	379	509	16.4	7.7%
8	23	21	398	398	17.3	8.1%
9	13	5	82	82	6.3	2.9%
10	31	31	559	597	19.3	9.0%
11	28	19	311	311	11.1	5.2%
12	28	35	541	578	20.6	9.6%
1	27	40	534	542	20.1	9.4%
2	15	2	26	26	1.7	0.8%
3	20	3	29	29	1.5	0.7%
計	307	239	3,604	3,817	12.4	5.8%

## (6) 年度別利用状況

年 度	研修団体数	研修実人数	研修延人数
昭和42年度～平成20年度	15,826	505,370	1,067,556
21	475	10,956	14,291
22	469	11,114	15,221
23	516	12,709	16,510
24	546	14,529	20,792
25	528	12,847	18,140
26	495	11,306	15,503
27	500	11,764	15,813
28	511	11,000	15,390
29	441	9,593	13,630
30	381	9,476	13,938
令和元年度	289	6,718	9,106
2	289	4,259	4,325
3	239	3,604	3,817
計	21,505	635,245	1,244,032

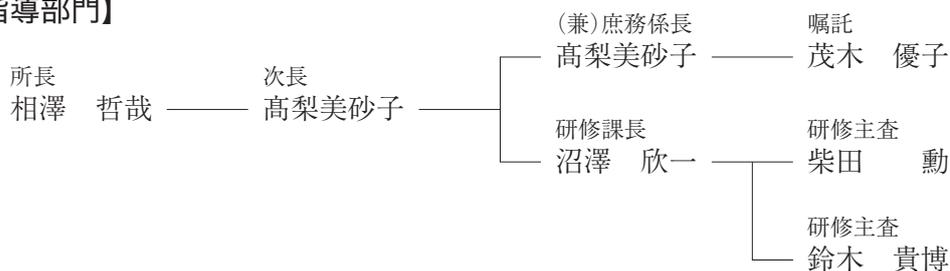
※数値は令和4年3月20日現在のもの

## 5 令和3年度研修利用実績一覧

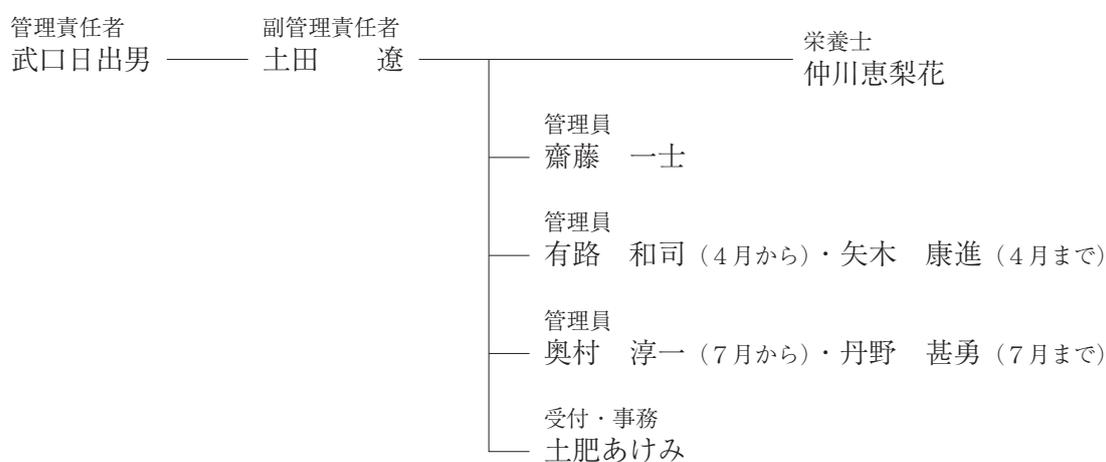
期間	利用者区分	幼児・児童・生徒・学生						成人・一般				指導者 引率者	実利用者数		利用者総数		利用率	開所 日数	研修 日数
		幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	小計	社会 教育	企業 関係	その他	小計		計	累計	計	累計			
4月	人数	0	6	68	65	0	139	5	0	0	0	5	219	219	219	219	3.4%	30	30
	団体	0	0	0	4	0	4	16	0	0	0	16	20	20					
5月	人数	1	41	61	36	0	139	5	0	6	11	231	450	231	450	3.5%	31	31	
	団体	0	0	0	1	0	1	13	0	1	14	15	35						35
6月	人数	0	51	76	8	0	135	29	31	10	70	295	745	295	745	4.6%	30	30	
	団体	0	0	0	0	0	0	15	1	2	18	18	53						53
7月	人数	0	122	63	7	0	192	50	0	44	94	379	1,124	379	1,124	7.7%	31	31	
	団体	0	0	0	0	0	0	22	0	8	30	30	83						83
8月	人数	0	28	167	30	2	227	43	0	0	43	398	1,522	398	1,522	8.1%	23	23	
	団体	0	0	1	1	0	2	17	0	2	19	21	104						104
9月	人数	0	7	35	8	0	50	0	0	0	0	82	1,604	82	1,604	2.9%	13	13	
	団体	0	0	0	0	0	0	5	0	0	5	5	109						109
10月	人数	1	116	139	71	1	328	0	41	24	65	559	2,163	559	2,163	9.0%	31	31	
	団体	0	0	2	2	0	4	21	1	5	27	31	140						140
11月	人数	0	69	67	19	1	156	0	30	30	60	311	2,474	311	2,474	5.2%	28	28	
	団体	0	0	0	0	0	0	15	1	3	19	19	159						159
12月	人数	0	110	172	63	5	350	3	0	7	10	541	3,015	541	3,015	9.6%	28	28	
	団体	0	0	0	0	0	0	31	0	4	35	35	194						194
1月	人数	2	97	185	43	2	329	0	10	1	11	534	3,549	534	3,549	9.4%	27	27	
	団体	0	0	0	1	0	1	32	1	6	39	40	234						234
2月	人数	0	0	10	6	0	16	0	0	0	0	26	3,575	26	3,575	0.8%	15	15	
	団体	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2	236						236
3月	人数	0	0	0	13	2	15	14	0	0	14	29	3,604	29	3,604	0.7%	20	20	
	団体	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	3	239						239
合計	人数計	4	647	1,043	369	13	2,076	149	112	122	383	3,604	3,604	3,604	3,604	20.4%	307	307	
	団体計	0	0	3	9	0	12	192	4	31	227	239	239						239

## 6 組織および職員構成

### 【指導部門】



### 【管理部門】 ※山形県青年の家管理企業体（指定管理者）



### 令和3年度 研修のあゆみ 一年報

発行 令和4年3月31日  
 編集・発行 山形県青年の家  
 〒994-0032 山形県天童市小路一丁目7番8号  
 TEL 023-654-4545  
 FAX 023-652-2007  
 URL : <https://www.pref.yamagata.jp/701005/kensei/shoukai/soshikiannai/kyoiku/701005.html>  
 YYボランティアビューロー  
 URL : <https://seinen.jp/>  
 印刷 株式会社 大風印刷 営業企画事業部 天童営業所  
 山形県天童市東久野本一丁目1番45号